

平成30年7月豪雨災害における 支援状況報告書



(岡山県社協イメージキャラクター「ももるんじゃー」)

目 次

はじめに

I 平成30年7月豪雨の概要と被害状況

(1) 平成30年7月豪雨の概要	1
(2) 被害状況	2
(3) 避難所開設状況及び避難者の状況	5
(4) ライフラインの被害と復旧状況	5

II 本会における取組状況

1. 組織全体（岡山県災害福祉救援本部）の動き	6
2. 災害ボランティアセンター運営支援	16
3. 災害派遣福祉チーム（DWAT）による支援活動	40
4. 生活福祉資金（福祉資金〔緊急小口資金〕）特例貸付の実施	53
5. 被災者の生活支援（被災者見守り・相談支援事業等）に係る 市町村支援	63

III 今後に向けて（次災害への備え）

1. 岡山県社協組織全体の対応（災害福祉救援本部）	77
2. 災害ボランティアセンター運営支援関係	78
3. 災害派遣福祉チーム派遣関係	81
4. 生活福祉資金（緊急小口資金）特例貸付事業関係	82
5. 被災者見守り・相談支援事業関係	82
6. 社会福祉法人施設・事業所への支援関係	84
7. 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う感染対策・対応	84
8. 全社協が提言する「災害福祉支援センター（仮称）」構想	85

おわりに

はじめに

平成30（2018）年7月豪雨は、7月5日から7日にかけての大雨により、西日本各地はもとより、本県においても県内各地に甚大な被害をもたらしました。その規模は、死者・行方不明者は80名を超え、また住家被害にいたっては全壊・半壊が8,000棟を超えるなど、災害が少ないといわれていた本県にとっては、まさに未曾有の災害となりました。

ここに改めて、亡くなられた方々に哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

また、発災以降、県内各災害ボランティアセンター並びに本会災害福祉救援本部の運営にあたって、運営スタッフとしての職員派遣、寄付金及び災害支援金並びに支援物資の提供、そして多くの温かいお言葉やメッセージなど、全国から多大なるご支援や励ましのお言葉をいただきましたことに対し、心から感謝申し上げます。

本会としては、発災直後である7月9日に岡山県災害福祉救援本部を設置し、これまで県内10市町社会福祉協議会に設置された11か所の災害ボランティアセンターの運営支援、生活福祉資金（緊急小口資金）特例貸付事業の実施、また岡山県社会福祉法人経営者協議会との協働による災害派遣福祉チーム（DWAT）による一般避難所での被災者個別支援など、様々な支援活動を展開してきました。平成30（2018年）10月1日からは、被災者見守り・相談支援事業に係る市町村支援業務を岡山県から受託し、本会地域福祉部に「くらし復興サポートセンター」を新設し、倉敷市真備支え合いセンターや総社市復興支援センターの後方支援や連絡調整等を展開しているところであります。

現在もなお、被災された方の中には、応急仮設住宅への入居や転居を余儀なくされ、住み慣れた地域を離れて生活していらっしゃる方がいます。このような方々の生活再建が進み、新たなコミュニティでも孤立することなく、地域住民として暮らすことができるよう、本会の基本理念に基づき、これまでの経験を生かしつつ、各関係者の皆様のご協力をいただきながら、コロナ禍における新しい生活様式にも配慮し、引き続き、被災地の状況に応じた復興支援に、役職員一丸となって取り組んでまいります。

最後になりましたが、今回の被災に際し、全国の社会福祉協議会をはじめ、各関係機関・団体、そして多くのボランティアの皆様等のご厚情、ご支援に改めて感謝申し上げますとともに、本報告書の作成にあたりご協力を賜りました関係者の皆様に心から厚く御礼を申し上げます、発行のご挨拶とさせていただきます。

令和2年11月

社会福祉法人 岡山県社会福祉協議会
会 長 足 羽 憲 治

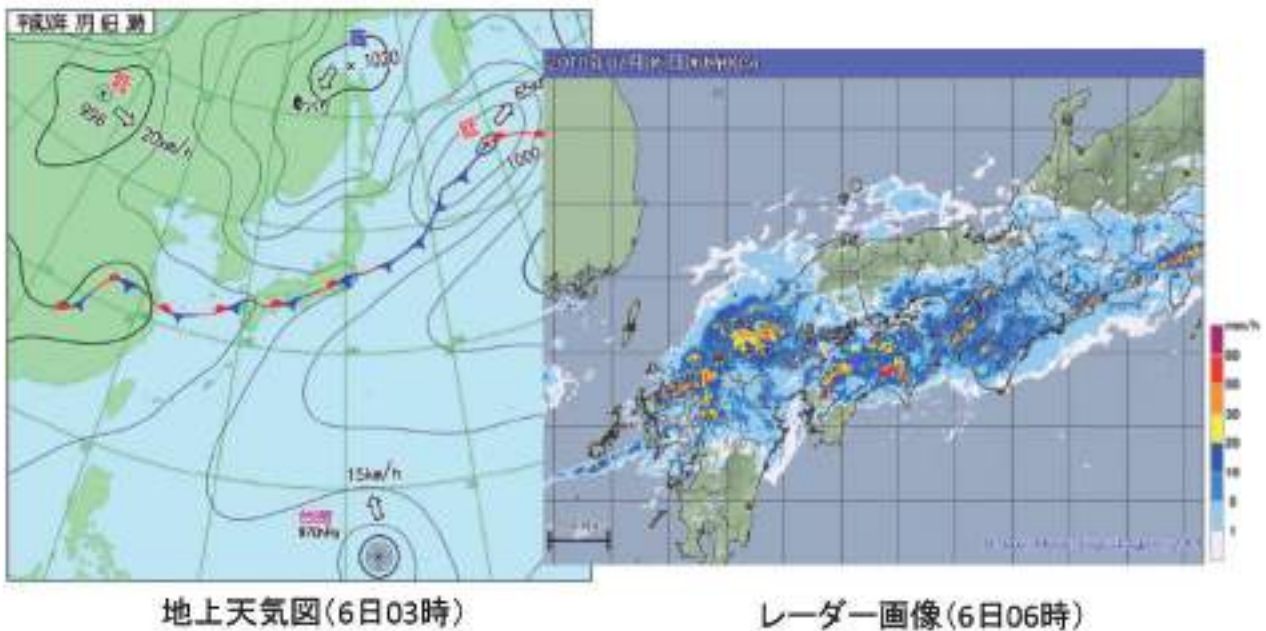
I. 平成30年7月豪雨の概要と被害状況

(1) 平成30年7月豪雨の概要

平成30年6月29日に日本の南海上で発生した台風第7号が、対馬海峡を通過し、7月4日に日本海で温帯低気圧に変わりました。その後、この低気圧からのびる梅雨前線が西日本上空に停滞し、7月5日から8日にかけて、南からの温かく湿った空気が流れ込み続けたことで前線の活動が非常に活発となり、西日本を中心に全国的に広い範囲で記録的な大雨となりました。

岡山県においても、6日夜に初めてとなる特別警報が県内24市町村に発表され、7月3日から8日までの総降水量は、鏡野町恩原で497.0ミリ、鏡野町富で490.0ミリを観測し、多くの観測地点で時間降水量の観測史上1位を記録するなど、この大雨の影響で、岡山県内でも甚大な水害・土砂災害が発生しました。

●地上天気図と気象レーダー



※岡山地方気象台より抜粋

(2) 被害状況

人的被害の状況は、県内全域で61名（災害関連死除く）となり、過去50年の水害被害の中では最悪の死亡者数となりました。小田川などの氾濫により、倉敷市に被害が集中しており、特に被害が大きかった倉敷市真備町では、52名が死亡、その8割以上が65歳以上であり、亡くなられた場所は8割以上が自宅でした。

住家被害の状況は、県内全域で16,379棟あり、市内の広い範囲で浸水した岡山市及び倉敷市の被害が大きくなっています。

【単位：人的被害（人）、住家被害（棟）】

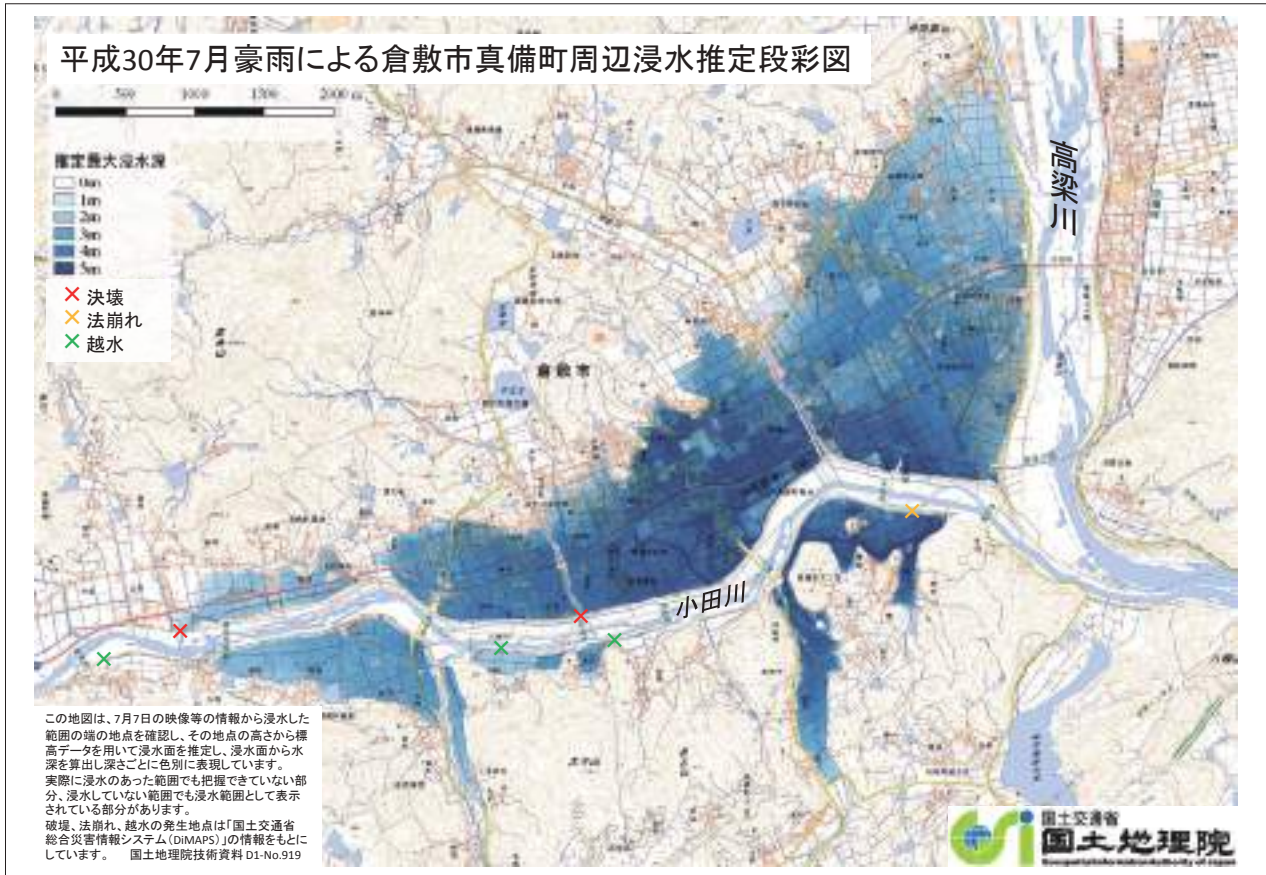
No.	市町村名	人的被害				住家被害				
		死亡者	行方不明者	重傷	軽傷	全壊	半壊	一部損壊	床上浸水	床下浸水
1	岡山市	2	－	－	4	13	1,196	39	1,042	3,986
2	倉敷市	69(17)	－	9	111	4,646	846	369	116	－
3	津山市	－	－	－	－	3	2	23	65	193
4	玉野市	－	－	－	－	－	2	5	－	13
5	笠岡市	1	－	1	3	2	177	25	22	153
6	井原市	2	－	－	4	11	39	23	120	167
7	総社市	9(7)	－	2	36	84	544	523	－	263
8	高梁市	2(2)	1	3	－	59	284	7	29	139
9	新見市	－	1	－	1	3	4	9	31	89
10	備前市	－	－	－	－	－	－	－	4	－
11	瀬戸内市	－	－	－	－	－	－	3	－	1
12	赤磐市	－	－	－	－	－	5	5	10	34
13	真庭市	－	－	－	－	2	4	13	38	83
14	美作市	－	－	－	－	－	－	－	27	74
15	浅口市	1	－	1	－	1	2	10	5	71
16	和气町	－	－	－	－	－	18	2	6	30
17	早島町	－	－	－	－	－	－	1	－	52
18	里庄町	1	－	－	－	1	2	4	－	9
19	矢掛町	1(1)	－	－	2	4	239	30	17	85
20	新庄村	－	－	－	－	－	－	－	－	1
21	鏡野町	－	1	－	－	1	1	26	－	15
22	勝央町	－	－	－	－	－	－	－	－	6
23	奈義町	－	－	－	－	－	－	－	－	2
24	西粟倉村	－	－	－	－	－	－	－	3	13
25	久米南町	－	－	－	－	－	－	2	－	－
26	美咲町	－	－	－	－	－	－	－	3	30
27	吉備中央町	－	－	－	－	－	－	7	3	8
	計	88(27)	3	16	161	4,830	3,365	1,126	1,541	5,517

※岡山県危機管理課HP発表（令和2年3月27日現在）

※死亡者にある（ ）の内訳人数は災害関連死

〈倉敷市真備町〉

最も被害が大きかった倉敷市真備町は、高梁川水系高梁川と小田川の水位上昇等に伴い、小田川及びその支川の6か所の堤防が決壊し、町全体の4分の1にあたる1,200haが浸水し、全壊棟数は約4,600棟に上りました。また、浸水の深さが最大5メートル超に達するところもありました。



画像出展：国土交通省国土地理院 (<https://www.gsi.go.jp/BOUSAI/H30.taihuu7gou.html>)

(3) 避難所開設状況及び避難者の状況

岡山県によると、避難所は7月5日から開設され、7月7日時点で446箇所になりましたが、発災当初は市町村からの報告がなく、7月9日までの避難者数は把握できませんでした。下の表は、避難者数を把握できた7月10日の人数を示しています。

市町村名	開設数（箇所）	避難者数（人）
岡山市	4	30
倉敷市	17	約2,750
笠岡市	2	6
井原市	10	37
総社市	11	約960
高梁市	7	約180
新見市	2	14
和気町	1	6
早島町	1	3
矢掛町	2	約20
合計	57	約4,000

(4) ライフラインの被害と復旧状況

浄水場や水源地の冠水等により、倉敷市や高梁市、矢掛町などで約31,100戸（7月9日時点）が断水となりました。また、井原市や総社市、高梁市などで約7,400戸（7月7日時点）が停電し、さらに倉敷市真備町にある通信ビルの水没により、電話やインターネットの通信障害も発生しました。

区分	主な被害	復旧日
水道	約31,100戸が断水	7月28日
電気	約7,400戸が停電	7月12日
電話	3,100回線	8月3日
インターネット	2,900回線	8月1日

引用：P.3～5 平成30年7月豪雨災害検証報告書／岡山県「平成30年7月豪雨」災害検証委員会